

「受胎告知」の絵画

2020/06/20 TI

「受胎告知」とは、キリスト教の聖典である新約聖書に書かれているエピソードの 1 つです。一般に、処女マリアに天使のガブリエルが降り、マリアが聖霊によってキリストを妊娠したことを告げると、マリアは、「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんの。」と疑問を抱き、驚きます。そして、ガブリエルに「神にとって不可能なことは一つもありません。」と言われ、マリアはそれを受け入れることを告げるのです。

この「受胎告知」は、新約聖書の「ルカの福音書」(1:26~38)に書かれています(本報末の付録参照)。それは、次の4つのシーンから構成されています。(Ref.1)。

- ① 天使が突然目の前に現れて驚き、マリアが怖がる(戸惑う)
- ② 天使に妊娠を告げられ、マリアが「なぜ私が？」と驚く
- ③ 天使の言ったことをマリアが受け入れる
- ④ 天使が飛び立つ(マリアは見送る?)

中世の絵画において、「受胎告知」は人気のある題材でした。その理由を述べた良い記事(Ref.2)がありました。下記に、転記します。まさに、「受胎告知」は画家としての腕の見せ所となる題材なのです。

「受胎告知」が画家の創造力を誘引してやまないだろうと思うのは、そこに、極めて複雑な精神的要素がみられるからである。厳かなる神の意志を伝えにやってきた大天使ガブリエルの篤実と誠意、驚きあきれながらも神の意志を受け入れんと欲するマリアの動揺と敬虔と純粹、それらを絵に盛り込まなければならない。これは画家にとって大仕事である。



(a) マルティーニ作



(b) レオナルド作



(c) ボッティチェリ



(d) エル・グレコ



(e) ムリーリョ作



(f) ジョルダーン作

図 1 絵画「受胎告知」における様々な顔表情の聖マリア

同窓会 HP のミニ美術館にも、多くの画家の作品「受胎告知」を展示しています。作品でのマリア様は、あの美しくて穏やかな表情の他に、とても驚いているようなものもあります。顔の表情については、顔の部分のみを切り出して並べた図1を参照してください。マリア様は、舞い降りた天使ガブリエルの視線と交差させるもの、お告げを受け入れんと視線を下げて漂わせているようなものなどがあります。天界から降臨寸前の天使に向けて視線を上げているものもあります。天使の位置もそれぞれです。それぞれの画家が魅せたかったものは何なのか…と、またその時のマリア様の心情は…と様々な思いを馳せることになりました。ここでは、そのいくつかの作品を制作年順に紹介します。

1. シモーネ・マルティーニ：「受胎告知」

図2は、シモーネ・マルティーニ作の板絵「受胎告知（1333年製作）」です。天使ガブリエル（御使い：絵の中央左側）が、聖書を読んでいたマリアの元にある日突然に舞い降り現れました。天使ガブリエルの羽は、着地したばかりで未だ大きく開いており、またマントも上方に棚引いています。そして、マリアに告げたのです。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます（妊娠されました）。」絵には、そのラテン語のお告げ”Ave Gratia plena dominus tecum”が天使ガブリエルの口元からマリアに向かって書かれています（図3参照）。そして、マリアは驚きと戸惑いの表情を見せています（顔部拡大図1(a)参照）。この絵は前述のシーン種類において、①～②に分類されるのでしょうか。受胎告知を描いたほとんどの作品で、天使が左側に、聖母マリアが右側に描かれます。

天使ガブリエルが持つものは平和のシンボルであるオリーブです。通常は、聖処女マリアの純潔を象徴するユリが描かれるのですが、ユリは画家派閥のライバルであるフィレンツェの紋章であったため、オリーブに替えられたと考えられています。（シモーネ・マルティーニは、シエナ派に属していました。）ユリは、床に置かれた花瓶に移されています。また、図中央上方の飛んでいる「白いハト」は、神の意思を伝える役割をする聖霊を表すそうです。

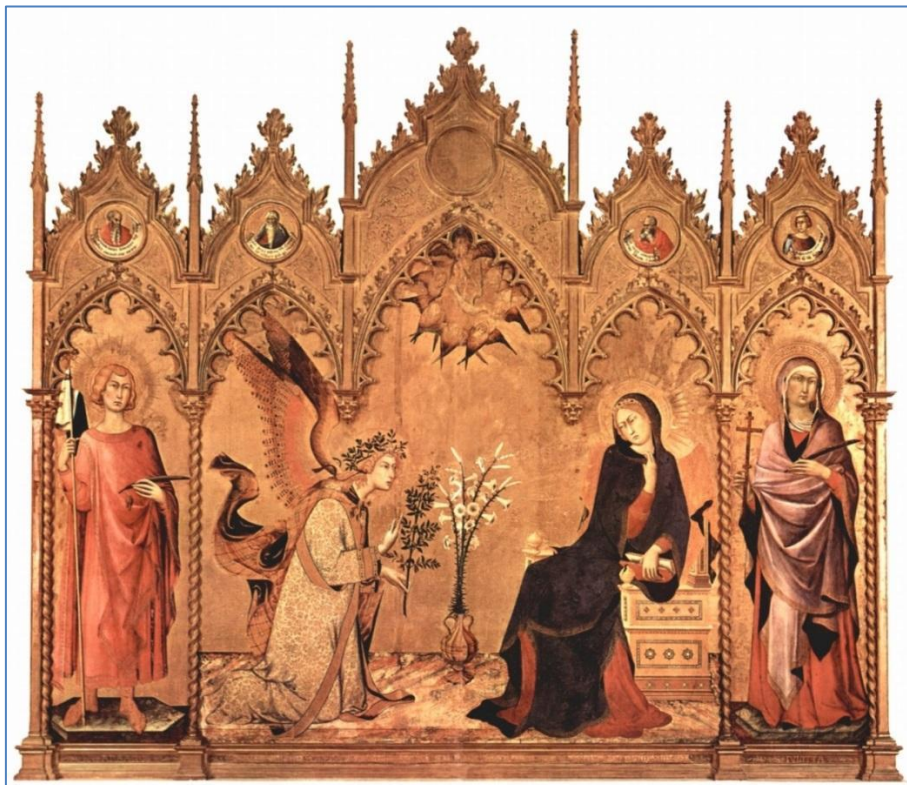


図2 シモーネ・マルティーニ作の板絵「受胎告知（1333年製作）」



図3 天使ガブリエル（御使い）の口元からマリヤに向かって書かれているお告げ
「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます（妊娠されました）。」
（図2「受胎告知」拡大図）

2. レオナルド・ダ・ヴィンチとボッティチェリ：「受胎告知」

図4は、レオナルド・ダ・ヴィンチが20才頃に描いた「受胎告知（製作年：1472-1475年頃）」です。左側にひざまずく天使ガブリエルは、右手の人差し指と中指を立ててピースサイン（Vサイン）のような形をつくり、聖母マリアへの祝福の意を表しています。左手は、聖母マリアの純潔の象徴である白百合を捧げています。一方、マリアの右手は開いた聖書を押さえ、左手は少し広げた手をガブリエルに向けています。両者の手がぴったりと向き合っていることから、まるで、ガブリエル右手からは、メッセージ「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます（妊娠されました）。」が送信され、マリアの左手がそれを受信しているように見えます。また、その左手のしぐさは、「驚き」や「天命を受け入れます」の心情を表しているようにも見えます。顔（拡大図1(b)参照）や体の表情は、驚きはなく、気品が漂い落ち着きが見られます。神の意向に恭順する姿勢となっています。マリアの衣服に関しては、青色のローブは純潔や信仰を表し、赤い色の衣服は、天の愛情を表しています。



図4 レオナルド・ダ・ヴィンチ：「受胎告知（1472-1475年頃製作）」

宗教画「受胎告知」における「白いユリの花」は、聖母マリアの「純潔」と「貞操」を象徴する大事なアトリビュートであり、そこに男性を象徴する雄蕊（おしべ）は通常は描かれませんが、ダ・ヴィンチ作の上記の絵画には、それが描かれています。なぜ、描かれたのかについては、さまざまに言われています。



図5 天使ガブリエルが持つ「白いユリの花」には、「おしべ」が描かれている。

次に、ボッティチェッリの「受胎告知（製作年：1489-90）」を図6に示します。ガブリエルが「白いユリの花」を左手に持っています。マリアの両手は、驚き、戸惑いのしぐさであり、体は振れています。一方、顔には受け入れの兆しの表情が表れています。シーン種別では、②～③あたりでしょうか。



図6 ボッティチェッリ：「受胎告知（1489-90年制作）」

3. ティントレット、エル・グレコとムリーリョ：「受胎告知」

図7は、ルネサンス時代の画家ティントレットの「受胎告知（製作年：1583-87）」です。ガブリエルが他の多くの天使を引き連れてマリアのところに舞い降りて来て、マリアがかなり驚いています。これまでの「受胎告知」では、天使はマリアと同じ地上に描かれていたのですが、ティントレットは天界からまさに降臨するばかりの天使の姿を空中に浮かせて描いています。また、ここには、「白いユリの花」はなく、聖霊の「白いハト」が描かれています。前述のシーン種別では、①でしょうか。

エル・グレコは「受胎告知」のモチーフを好んで描き、多数の作品を残しています。図8は、その内の一枚で、大原美術館にある作品（1590頃-1603年制作）です。深い神秘的な闇に包まれた夜空に、突然眩いばかりの光芒を発して天使が登場します。雲に乗って現われた天使は、右手を大きく振りながら天に向け、左手に純潔のシンボルである白百合の花を持って、やや上の方から聖処女マリアを見下しています。マリアは、書見台の前から大きく身をよじらせ、この不意の出現に驚きながらも、片手を挙げて天使を迎え、たじろがぬ視線で天使を見上げながら、しっかりとお告げの言葉を受け止めています。画面を斜めによぎるこの二人の視線の交錯こそが、全体の構図の中心になっています。エル・グレコも、天使を地上にではなく、雲に乗って夜の闇に輝くダイナミックな姿として描いています。「受胎告知」画において、天使が左側に、聖母マリアが右側に描かれるのが通常ですが、この絵はなぜか逆に描かれています。この逆位置は、当時において斬新さを読んだことでしょう。

図9は、バロック期の画家ムリーリョによる「受胎告知（1655-1660 製作）」です。マリアと天使ガブリエルの両者が地上にいて、その上方に聖霊の白いハトがこの画の構図の中心として描かれています。マリアは両手を胸の前で交差させており、このポーズは天使ガブリエルの受胎告知を受け入れたことを表しています。マリアは、とても美しく、穏やかな優しい表情です。私の好きな「受胎告知」です。描かれているマリアは、とても若いですね。この時のマリアの年齢は、当時の婚姻年齢を基に13～15歳といわれていますから、納得できます。前述のシーン分類においては、③に分類されるでしょうか。



図7 ティントレット（1583-87年制作）



図8 エル・グレコ
（1590頃-1603年制作）



図9 ムリーリョ
(1655-1660年製作)

5. ルカ・ジョルダーノとパオロ・デ・マティス：「受胎告知」

図10はルカ・ジョルダーノの作品（1672年製作）です。飛び込んできたガブリエルは未だ着地もしていません。一方、マリアは驚きと戸惑いの表情でガブリエルを見ており、右手もそれになっています。しかし、左手は胸の前にあり、これから両手で交差をする前段階の様にも見られます。シーン種別では、①～③あたりと広くカバーしているのでしょうか。

図11はパオロ・デ・マティス作（1712年製作）です。マリアはもはやガブリエルを見ておらず、左手は未だ胸の前で右手と交差するまでには至っていませんが、顔は穏やかになっており、ガブリエルの言葉を受け入れる準備が整いつつあるように思えます。シーン種別では、②～③あたりでしょうか。ガブリエルはこれまで女性として描かれていましたが、図7では両肩をはだけており、一見、男性ように思えますが、筋肉粒々どころか丸みのある白い肌をしています。実際は、ガブリエルは天使なので、女でも男でもなく無性だそうです。ただ、創作作品では“清らかな天使”のイメージから、女性的・中性的に描かれることが多いようです。

両図とも、天使ガブリエルは躍動感があり非常に美しく描かれています。聖マリアに劣らない主役を務めています。これら「受胎告知」も好きな絵です。

また、シーン種別において、④「天使ガブリエルが飛び立ち、マリアが見送る」シーンを描写した絵画は見当たりませんでした。



図 10 ルカ・ジョルダーノ（1672 年製作） 図 11 パオロ・デ・マティス（1712 年製作）

6. 天使と聖母マリアがそれぞれ単独に描かれた受胎告知

最後に、天使と聖母マリアがそれぞれ単独に描かれた「受胎告知」（図 12）もあり、紹介いたします。カルロ・ドルチの作品（1655 年頃制作）です。とても美しく気に入っている作品です。



図 12 カルロ・ドルチ：受胎告知の天使（左）と聖母（右）（1655 年頃制作）

7. なぜ多くの画家が「受胎告知」を描いたのか？

この問いに対してすばり回答した高階さん(美術評論家・美術史家、大原美術館館長)の記事(Ref.3)がありました。それによると、以下に転記した2つの理由が挙げられています。

1) 《受胎告知》の制作受注はビジネスチャンスだった！?

中世においてはいまと違って、画家みずから絵の主題を選ぶということは稀だった。主に教会や王侯貴族らが注文主となり、白羽の矢を立てた画家に画題を指定して発注したものである。

《受胎告知》の制作を依頼されることは、画家たちにとっては大きな名誉だったに違いない。キリスト教を布教するための極めて重要なテーマであり、したがって教会の中でもとりわけ目を惹く場所に設置される。

その絵が評判を呼べば、いまでいう次のビジネスチャンスにもつながる。王侯貴族にとっても信仰は大切であり、《受胎告知》は特別なものだったから、画家にとっては他の絵を依頼されることとは重みが違うと言えるだろう。

2) 現代のファッション・ブランドと同じ「工房制度」が、作品の量産を可能にした

中世の頃の画家は、芸術家というよりも職人といった側面が強かった。そして工房を構え、たくさんのスタッフをしがて、分業制をとっていた。つまり絵画の制作は、個人の表現活動ではなく工房による集団作業であった。この工房制度は、その後もなお、長く続く。

付録 ルカの福音書【新改訳改訂第3版】1:26～38 (Ref.4)

(執筆者 TI 注:「マリア」には音訳の「マリヤ」が使われています。)

1:26 ところで、その六か月目に、御使いガブリエルが、神から遣わされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。

1:27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリヤといった。1:28 御使いは、入って来ると、マリヤに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」

1:29 しかし、マリヤはこのことばに、ひどくとまどって、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。

1:30 すると御使いが言った。「こわがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。」

1:31 ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。

1:32 その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。

1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」

1:34 そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知らないのに。」

1:35 御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。」

1:36 ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になって男の子を宿しています。不妊の女といわれていた人なのに、今はもう六か月です。

1:37 神にとって不可能なことは一つもありません。」

1:38 マリヤは言った。「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」こうして御使いは彼女から去って行った。

参考文献

Ref.1 シモーネ・マルティーニ「受胎告知」豪華絢爛なゴシック美術の極み。

(<https://firenzeguide.net/simone-martini-annunciazione/#i>)

Ref.2 Annunciazione (受胎告知)

(<http://kikuitimonji.kuchinawa.com/art/Botticelli/annunciazione.htm>)

Ref.3 高階秀爾, “ルネサンス期の画家がこぞってマリアのルネサンス期の画家がこぞってマリアの《受胎告知》を描いた理由” (<https://shuchi.php.co.jp/article/5910?p=0>)

Ref.4 音声：ルカの福音書(4) 1：26～38 私は主のはしため

(<https://chinosiokonan.com/archives/818>)

HPミニ美術館

題材：受胎告知：

(<http://irumagakuen9ki.sakura.ne.jp/HP-WOW-slideshow-Original/HP-mini-museum-mokuroku-daizai.html#jyutaikokuchi>)